



区民が主役の まちづくり!

平成26年度 伏見区区民活動支援事業活動事例集



伏見区役所・深草支所・醍醐支所



京都市

～はじめに～

「伏見区区民活動支援事業活動事例集」は、同事業の採択団体による「区民が主役のまちづくり活動」を、より多くの皆様に知っていただくことを目的として、また、団体の活動報告を兼ねて作成しました。

「自分たちも伏見区内で何か活動ができないか」とお考えの皆様の参考になれば幸いです。

<目次>

1	伏見区区民活動支援事業概要	P1
2	審査委員長からのメッセージ	P2
3	採択団体の取組	P3～P25

(1) 一般枠

団体名	事業名	掲載頁
池田東学区自治町内会連合会	「はなまるカレンダー」活用による家庭・地域きずな強化大作戦	3,4
特定非営利活動法人伏見クラブ	おおぞら少年少女ラグビーチーム中学生になってもスポーツ続けようプロジェクト	5,6
向島二の丸学区防犯パトロール隊	きずなづくりニュータウンで防犯活動新聞及び防犯マップ作り	7,8
淀南地誌の会	淀南地域の歴史本作成作業	9,10
向島駅前まちづくり協議会	「向島駅前まちづくり憲章」推進事業	11
石峰寺山野手町町内会	史跡修復活動を通じての地域住民の親交増進と子供達への伝統教育	11
蔵ジャズフェスティバル	蔵ジャズフェスティバル	12
久我の杜つながり隊プロジェクト	久我の杜地域セミナー	12
特定非営利活動法人伏見観光協会	伏見情報集積・発信Webサイト事業	13
伏見区砂川学区自治連合会	さと・まちコラボ(砂川学区・京北町姉妹学区提携事業)準備プロジェクト	13
伏見歴史顕彰会	伏見のヒーロー伝説とまちづくり計画	14
桃山プロジェクト	桃山プロジェクト	14
伏見力発信プロジェクトチーム	世界に発信, 伏見の暮らし, 歴史と酒とおばんざい	15
特定非営利活動法人ちいろば	あなたの居場所「ス カサ」	15
ふかくさ町家シネマ・プロジェクトチーム	ふかくさ町家シネマでつなぐ異世代交流事業	16

(2) 小規模枠

団体名	事業名	掲載頁
淀みず車の会	淀の歴史, 文化を広めるための紙芝居制作・公演事業	17
みどりの会伏見桃山	森林・里山の空間とクリーンエネルギーの活用	17
桃山南学区自治会連合会	桃山南学区安全マップづくり	18
父活PROJECT	父活PROJECTものことば2014	18
名神深草森の会	もっと伏見の自然に向き合おう!	19
淀・淀南・納所地域のモビリティ・マネジメント推進プロジェクト	淀・淀南・納所地域におけるモビリティ・マネジメント	19
伏見楽舎	親子で見て知って楽しもう, 伏見のヨシ	20
柿原団地自治会	地域協働によるまちづくり推進活動	20
京都ピアノとうたの音楽ひろば	みんなのうたごえカフェ	21
特定非営利活動法人伏見板橋よいまちづくり	伏見板橋から広げる伏見区よいまちづくり活動	21
久我菜の会	地域のふれあいと健康づくり	22
伏見まるごと博物館	伏見まるごと博物館 2014	22
伏見まちかど音楽隊	伏見まちかど音楽隊	23
特定非営利活動法人深草・龍谷町家コミュニティ	町家 de 交龍	23
深草古絵図プロジェクト	古絵図・古地図で再発見! 過去・現在・未来	24
健康体操クラブ砂川	年齢より若い体力のある健康づくり	24
龍谷 O DEN	ヨシを活用して, 伏見の特産品を創ろう!	25
大人(高齢者)の元気プロジェクト	わかち合い繋がる「場」づくり事業	25

※ 各枠ごとに申請順に掲載しています(インタビュー除く)

1 伏見区区民活動支援事業概要

この事業は、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」の推進に当たり、区民の皆さんが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていくために、区民主体で取り組まれるまちづくり活動経費の一部を支援するものです。

採択事業は、「伏見区区民活動支援事業審査会」委員による審査を経て、伏見区長が決定します。

(1) 補助金上限額

一般枠 上限 60 万円 (必要事業経費の 2 分の 1 以内)

小規模枠 上限 10 万円 (必要事業経費の 4 分の 3 以内)

(2) 申請・採択状況

	申請件数 (金額)	採択件数 (金額)
一般枠	19 事業 (8,229 千円)	15 事業 (6,342 千円)
小規模枠	21 事業 (2,080 千円)	18 事業 (1,800 千円)
合計	40 事業 (10,309 千円)	33 事業 (8,142 千円)

参考：過去の採択状況

	申請件数 (金額)	採択件数 (金額)
平成 24 年度	26 事業 (7,483 千円)	19 事業 (4,946 千円)
平成 25 年度	39 事業 (10,504 千円)	33 事業 (8,400 千円)

2 審査委員長からのメッセージ

伏見区では、平成 24 年度から伏見のまちを元気にする活動を支援する「伏見区区民活動支援事業」を設け、これまでに 30 を超える区民主体のまちづくり活動への支援を行ってきました。

そして、平成 26 年度からは区基本計画推進区民会議での意見等を踏まえ、より大規模な事業にも対応できるよう補助金上限額を従来の 30 万円から 60 万円へと大幅に引き上げると同時に、新しい活動の芽を掘り起こすため 10 万円を上限とする「小規模枠」を併設するなど制度を見直しました。その結果、今年度は大規模な事業から小さいながらも個性あふれる事業まで、バリエーションに富んだ申請がありました。

審査会では、公平な審査とするため、学識者・地元各種団体・区民公募委員など 10 名の委員によって、各申請について、事業計画の具体性や経費の積算の妥当性など、5 つの審査基準に基づいて審査を行いました。申請団体によるプレゼンテーションでは、各団体のみなさんの「自分たちのまちは自分たちの手で良くしていく」という熱い思いが伝わってきて、審査委員一同、責任の重さをひしひしと感じながらの審査となりました。

こうした審査会での議論の結果、限りある予算を最大限有効に活用してほしいという思いを込め、審査委員の総意としての採択案を最終決定者である区長にお伝えさせていただきました。その後、採択された団体の活発な取り組みの様子が、新聞各紙や市民しんぶん等で掲載されるなどしております。このように、各団体のみなさまが、着実に成果を挙げておられることは、喜ばしい限りです。

この支援事業がきっかけとなり、区民が主役のまちづくり活動の輪が今後ますます広がっていくことを心から願っております。



審査委員長
加藤 博史
(龍谷大学短期大学部教授)



審査会の様子

3 採択団体の取組

(1) 一般枠

「はなまるカレンダー」活用による 家庭・地域きずな強化大作戦

池田東学区自治町内会連合会

池田東学区は醍醐地域の閑静な住宅街です。もともと田畑が広がっていましたが、70年代ごろの都市化と人口増の折に急速に宅地開発が進み、現在の姿となりました。しかしこういった経緯で開発された多くの住宅地で共通するように、少子高齢化や住民間のコミュニケーションの希薄化、地域活動への無関心などの課題を抱えています。

そんな池田東学区で今回、本支援事業の補助金を受けて実施されているのが「はなまるカレンダー活用による家庭・地域きずな強化大作戦」です。本取材では、池田東学区自治町内会連合会の奈良磐雄会長にお話を聞きました。



笑顔で取材に応じてくれた奈良会長



はなまるカレンダー

活動インタビュー

池田東学区自治町内会連合会は、本事業でオリジナルのカレンダーを作成し、地域住民に配布しています。カレンダーは、2ヶ月ごとの学区や町内会行事が一覧化されており、いつものような行事が行われているのかひと目で分かるようになっています。しかし本事業の趣旨は、単なる行事一覧づくりではありません。本事業が注目に値するのは、このカレンダーが「コミュニケーションを誘発するメディア」として周到に設計されている点です。

まず、このカレンダーは区の補助を受けることで、全戸配布、つまり町内会に加入していない世帯にも配布されています。さらに町内の各組長が原則一軒一軒配布して回る仕組みになっています。そこで町内会員と非会員との間のコミュニケーションが生まれるように設計されているのです。その上、年間カレンダーではなく2ヶ月毎のカレンダーなので、2ヶ月に一度はこの機会が回ってくるようになっています。何度も顔を合わせ挨拶することは親しい間柄を作るための要件といえます。



はなまるカレンダーの案内文書

加えて、カレンダーの上端には、例えば宿題や挨拶や犬の散歩などの「子供と親との約束事」が書き込める欄があり、約束ができた際にはその日の欄に「はなまる」を書き込めるようになっています。ここでは親子のコミュニケーションが生まれるように設計されています。なお、この意匠の部分が「はなまるカレンダー」の名の由来ともなっています。



はなまるマークの横に、利用者それぞれが目標や約束事を書き込めるようになっています

どうしてこのカレンダーを作ろうと考えられたのでしょうか。奈良会長はこう語ります。

「地域のつながりが弱まりつつあります。町内会は何のためにあるのか、もう一度住民みんなでその意味を共有したいんです。私達は毎月こんなことをしていますよ、うちはコミュニケーションを大事にしている町内ですよ、と。どういう行事をしているか、ということだけでなく、やっている側の思いを伝えたいんです。」

こういった新しいことに取り組むのは勇気がいるし、面倒も抱えることになるかもしれませんが。しかし奈良会長は「何事もやってみなわからん、ということです。やらんよりは、やった方がいいです。私達は地域の人たちから運営を任されているのですから」と前向きに語ります。

奈良会長がこのまちに移り住んで三十三年。同年代の仲間達とともに、先代の会長からまちづくりを進める上で大切な哲学や振る舞いを教えてもらいながら、これまでもいろんな活動に熱心に取り組んできました。その延長線上に今の活動があります。まちづくりに対する熱意や、長く取り組む秘訣はどこにあるのでしょうか。

「確かに、地域活動より、もっと楽しいこともあるでしょうけど、地域みんなが笑顔になって、わーっと話が弾む。人が喜ぶ。そういう姿を見ることが僕は嬉しいのです。誰かがやってくれるのを待つのでなく、自分達で創りだしていく。もちろん、町内を運営するには、最低でもやらなければならないことがあるし、ほっといたら誰もやってくれんやろうな、という危惧があるので、やっています。止めてしまうのは簡単です。一方で、新しく始めるのはすごく大変ですよ。だからこそ、諸先輩方が苦勞して続けてこられたことを受け継いでいくことは大事と思っています。」

かといって、義務感だけでは人は動かないですからね。楽しくないと。今の地域活動は、どこかで、しんどい雰囲気だけが伝わっているのかもしれない。新しい力を取り込んでいくには、まちづくりをやっている側の楽しさをうまく伝えていかないとダメですね。」

そんな思いが、「はなまるカレンダー」の意匠にも表れているようです。本事業の効果は、これから住民アンケート調査を行って明らかにしていくということです。まちづくりの楽しさを発信する池田東学区と奈良会長の取組に今後も注目したいと思います。

おおぞら少年少女ラグビーチーム 中学生になってもスポーツ続けようプロジェクト

特定非営利活動法人 伏見クラブ

NPO法人伏見クラブは、伏見工業高校ラグビー部のOB達を中心となって結成されました。小中学生を中心とした子ども達にラグビーの練習機会を提供し、ラグビーを通して友人や地域の大人達とコミュニケーションを深め、社会性を身につけてもらおうと、区内で活動しています。平成25年度からは、「伏見カップ」を開催して、たくさん子ども達が輝く場を作っています。



学校や学年の違う子ども達が、共に練習



子ども達によりよい環境を、と語る代表の坪井さん

活動インタビュー

◆チームづくりや大会を通して、ラグビーが子ども達にできることを広めたい

伏見クラブは、伏見工業高校(以下「伏工」)ラグビー部のOBらが中心となって立ち上げたNPO法人です。坪井さんは、ご自身も高校ラグビーのV2(全国制覇)のメンバーであり、その後もラグビー一筋で走ってきた方です。やむなくラグビーから離れ仕事に打ち込んだ時期もありましたが、自分を育ててくれたラグビーの世界で、何か恩返しをしたいと考えていた時期にNPO法人設立の話があり、仕事で培ったスキルも活かして活動を牽引していくことにしたそうです。

伏工OB達は、ラグビーが自分達の体力や団結力を強くするだけでなく、仲間との関係づくりやコミュニケーション力など社会性を育むものであるということ、身を持って体験してきました。そこで、単なる強さや勝利を求めるのではなく、地域の子どもの健全な育成につながると信じてNPO法人を設立し、「おおぞら少年少女ラグビーチーム」を作りました。チームへの参加は小学生が中心ですが、伏見区内でもラグビーができる中学校は少ないため、中学生も参加できる場を作っています。勝利だけでなく社会性を身につけることなども目指した指導方針のもと、今では40名近い子ども達が参加しています。例えば学校で友人ができ

ず悩んでいる子どもなども、大人達に声を掛けられながら一緒に汗を流しています。

◆伏見カップで地域の子子ども達が交流する場が盛り上がってきました

本支援事業の応援も得て、伏見クラブは、平成25年度、26年度と2回の「伏見カップ」を開催しました。伏見カップは、小学校単位で活動している「タグラグビー」のルールで競います。タックルをせずに、タグ(紐状のもの)を取ることで強い身体接触を避け、ボールを運んでトライを目指します。坪井さんによれば、ラグビーは、ボールを手で持って自由に走れる数少ないスポーツで、攻守が頻繁に入れ替わるのが特徴。次々と変わる状況に対して、自分はどう判断してチームの中でどんな役割を担えばよいのか、たくさん頭を使って体を動かします。タグラグビーは、ラグビーの醍醐味の一つであるタックルを禁止しながらも、ゲームの面白さを残して、初心者や子ども達でも気軽に取り組めるように考えられた方法です。

伏見カップでは、大会参加の小学生達が、伏工の現役プレイヤーとも交流できるよう工夫がなされました。子ども達は大人だけでなく憧れの現役選手に教えてもらえる、高校生は子ども達に教えることでより深く成長できると考えたからです。この「異年齢交流」が、伏見カップの大きな特徴となっています。そして、伏見を中心として地域のさまざまな場所でラグビーを楽しんでいる人達が、集まることができたという強い想いも込められました。

こうして、小学生タグラグビー × 地域のラグビースクール × 高校生、というさまざまな要素が組み合わさった「伏見カップ」が誕生したのです。第2回大会では、60余りのチームが参加し、年齢も性別もさまざまに経験の量も異なるたくさん子ども達が、グラウンドを力いっぱい駆け回りました。



たくさんのチームで競った第2回伏見カップ



男子も女子も、チームワークで攻める・守る

これまで伏見で育ち、巣立っていったラグーマン達が、地域でたくさんの点として活動しています。小学生から中学生へ、中学生から高校生へ。これからも、地域のラグビーチームの運営や大会を通して、これまでのたくさんの点を線にしたり面にしたりしていくのが、環境づくりを担いたいという坪井さん達NPO法人メンバーの揺らがぬミッションです。

きずなづくりニュータウンで 防犯活動及び防犯新聞づくり

向島二ノ丸学区パトロール隊

向島二ノ丸学区パトロール隊は、住民が「向島は治安の良いまち」だと安心して暮らせるように、交通安全や防犯活動を行っています。平成24年度から25年度にかけて「向島・防犯パトロール新聞『きずな』」を7回発行し、定期的なパトロールを行いました。

平成16年に向島ニュータウン敷地内での痴漢や消火器等の窃盗に対する目撃情報が寄せられたことをきっかけに、小島さんを中心とする有志グループが立ち上がり、団地内での犯罪防止に向けた活動を始めました。現在、伏見平安レディース隊の「向島二ノ丸支部レディース隊」と合わせて21名のメンバーとともに、新聞づくりと向島地域全体のパトロールを中心に活動しています。



活動インタビュー

◆「きずな」を育む防犯新聞づくり

「向島・防犯パトロール新聞『きずな』」は、パソコンを使う仕事をしてきた清水さんの担当です。向島の地域行事や、インターネットから選んだ、向島地域に役立つような防犯や防火に関する情報を記事にまとめ、メンバー全員で手分けをして毎回5000部の新聞を向島地域の団地、学校、病院へ配ります。

配布中「うちにも配って」というリクエストがあり、うれしかったと池本さんが言うと、清水さんは「『読んでよかったよ』『ごころうさん』などの言葉をもらって疲れが吹き飛びます」と語るなど、読者の反応や励ましが新聞づくりへのやる気につながっています。

◆昼夜問わずの巡回パトロール

子どもたちの下校時に合わせて、子ども見守り隊として学校前と通学路の信号のない横断歩



道2か所に分かれて立ち、子どもたちが安全に道路を渡れるように誘導しています。

一方、青色灯を車につけたパトロールは午後9時ごろ始まり、夜遅い時間帯での犯罪を防ぐため、時には深夜までパトロールが続きます。

パトロールでは、自転車の無灯火運転を見かけたら声をかけるようにし、街灯の電球が切れていないかなども確認します。街灯ひとつとっても、場所によって連絡する場所が違うので「最初は戸惑いましたが、何年もやっていると大体覚えるようになってきました」と柳沢さんはいいます。

平成25年に青色パトロールにスピーカーをつけたことで、「通行人によびかけやすくなりました」と山下さん。スピーカーを使って交通マナーの他、ひったくりや振り込め詐欺などの防止策を伝える合間に童謡を流しています。耳馴染みのある歌を織り交ぜることで地域の人たちが交通に関する情報に耳を傾けやすくする工夫をしています。

毎週約3回のパトロールでは、役割分担は特にせず、出られる人がパトロールを行うことで、仕事のある人も無理ない参加を可能にしています。また、警察署へ立ち寄りたり、警察から届く伏見に関する事件や注意喚起のFAXに目を通したり、隔月開催の防犯推進協議会の集まりを通じて地元警察との連携を図っています。

このように、メンバーにあまり負担のないように、警察と協力しあいながら向島地域全体の防犯に努めています。

「地域の人たちが青色パトロール車を見て安心したり、新聞を通じてパトロール隊の活動を広く知ってもらえたりすることが一番ありがたい」と声をそろえるメンバーの方たち。

紙やインク代など活動に必要なお金をどのように確保していけばよいかは今後の課題ではあるものの、情報発信やパトロールを続けることによって「地域の安全は誰かに任せるのではなく、自分たちで守らなくては」ということを地域の人々に伝え、これからも実践しようとしています。



◆視野が広がる地域活動

「初めて申請する時は書類の書き方もよくわからず、審査など面倒臭いと感じることもあります。そうすると、自治会で今できる範囲で良いなと思ってしまうかもしれません。

それでも、私たちはこの支援事業に挑戦してみてもよかったと思います。行政の協力やほかの地域との交流もできて人間が少し大きくなりますよ。」と小島さんは活動のやりがいを感じてにこやかに語ります。今後も向島二ノ丸学区パトロール隊による防犯活動の取組が継続されることによって、人と人のきずなが深まり、ずっと安心して暮らせるまちであることが期待されます。

淀南地域の歴史本作成作業

淀南地誌の会

淀南地誌の会は、地域に伝わる伝承や古文書をまとめ、文献を整理して歴史本を作成することによって、住民に郷土への関心を持ってもらうと同時に、これからのまちの発展の一助となることを目指している団体です。2年間の活動により、平成26年10月、ついに歴史本「淀南の歴史」が完成しました。

活動インタビュー

◆きっかけは？

「平成24年11月に聞いた、水垂地域による歴史の講演会に衝撃を受けたのです。」と話してくださったのは、会の代表の木田明さん。「淀や納所は歴史的にも有名ですが、水垂は淀南と同じように特に何もなくて、語られるべき歴史があるのだろうか、と思っていました。ところが、佛教大学の植村先生のお話しや学生の発表、拓本の展示を見て驚きました。水垂の貴重な歴史が語られていたのです。」

淀や納所にはすでに歴史本があり、隣の久御山町や八幡市では行政発行の立派な本があります。水垂でも地域と大学による研究の成果が本になるので、地誌と呼べる記録がないのは淀南だけに。そこでわがまちでも歴史本がつくれぬものかと思って、まずは植村先生に淀南の歴史について教示していただけるようお願いに行ったそうです。ひとまずはOKをもらい、平成25年3月に「淀南地誌の会」を立ち上げました。

◆最初は住民の皆さんへの呼びかけから

「最初は学生さんが調べてくれるのだろうと期待していたのですが、植村先生に『地域の人が自ら探さないと資料はありませんよ』と言われ、そこから覚悟を決めて、自分たちで資料集めを始めました。」



出てきた資料「美豆橋詰町の家並み」



拓本教室

まずは、淀南学区の全戸に対して資料探しをお願いするチラシ配布です。その結果、たくさんの古文書が出てきたそうです。それらの多くは土地のやり取り。古い文字の解読が難しかったので、先生と学生に助けられました。「江戸時代の家並みの図が出てきたんですよ。どの家

がどんな商売をしていたのかがわかります。めし屋、昆布屋、染物屋、醤油醸造・・・当時の暮らしが想像できます。」と話す木田さんの目も輝いています。会では史跡を訪れたり拓本のとり方を学んだり、活動を展開していったそうです。

◆地誌作り開始

会のメンバーは全部で19人。役割分担をして、地誌の文章を書くのは木田さんの役目となったそうです。ところがー

「調べたことを文章にしていっていったのですが、困ってしまいました。歴史というものは、様々な事柄が並行して続いていきます。お城を例に挙げても、複数の時代に顔を出してきます。最初は単に年表を整理したらいいのかと思っていたのですが、とても複雑でわかりにくいものになってしまうので、筆が止まってしまいました。」しかも運の悪いことに、木田さんはアキレス腱を切るという大怪我で入院してしまいました。手術して退院してからも、地誌の作業は進まず家に閉じこもる日が続いたそうです。



出てきた資料「庶民の駕籠」

◆アクシデントが幸運に

そんな中、ふとひらめいたそうです。「淀川の歴史を中心に書いてみよう。」

淀南の中心である美豆だけをみていると、歴史的な事実が断片的にしか見えませんが、淀川の流れの変遷をストーリーの軸に据えて、美豆・際目・生津・川口、それから八幡・橋本といった淀川を生活圏とするエリアを全体的に見ていくと、わかりやすく書けるかもしれない。これを思いついたら、すらすらと文章が出てきたそうです。

平成25年10月には、病気で心臓の手術をする羽目になるという、続けてのアクシデントが降りかかってきましたが、今度は逆に、退院して家にいる時間に文章が書いて助かったとのこと。

様々な困難を乗り越えながら、平成26年10月に「淀南の歴史」として発行することができ、小学校、中学校、図書館、各団体などに配布したそうです。



完成した「淀南の歴史」

◆今後は

地誌はとても好評で、地域の老人会などの集まりで紹介してほしいという依頼がきているそうです。これからは地誌をきっかけに歴史を伝え、より地元を愛する人を増やしたいとのこと。昔は淀川の舟運が大動脈でしたが、それが蒸気船に変わり、今では京阪電車が交通の軸です。古いことを調べると、自分たちのまちにもいろいろあったことがわかってきて、それが明日の生き方につながるんじゃないかと思っています。」住民みんなの協力で歴史を発掘し、それをきっかけに地元を愛する人を増やす。地道ながらも大切な取り組みをしている淀南地誌の会の活動でした。

「向島駅前まちづくり憲章」の推進事業

向島駅前まちづくり協議会

住民同士の親睦と交流を深め、一層の奮起を互いに確認し合う場として「秋の祭典」を開催しました。回を重ねるごとに協力の輪が広がり、盛況となっています。特に医療機関・介護施設・包括センターなどの協力による健康相談コーナーは、好評につき、今回は、内容の充実と拡大に努めたいと考えています。

また、昨年度に実施した健康福祉アンケート結果報告をふまえて、医療・介護の「包括ケアシステム」について柏市豊四季台の視察研修会を実施しました。今後は、ニュータウンの医療・介護の課題に取り組むため現状把握に努め、国・府・市の方針などを探り、勉強会を重ねて道筋をつけていきたいです。



「秋の祭典」は、交流の場として定着しているので継続を目指します。「包括ケアシステム」は、団地モデルとして各職種との協力のもとに方向性を見いだしていきたいです。



史跡修復活動を通じての地域住民の親交増進と子供達への伝統教育

石峰寺山野手町町内会 ホームページ <http://ishinote.wix.com/ishinote>

町内にある、由緒ある「茶碗子の井戸」と地蔵堂を町内会で立案計画して改修しました。改修工事の過程では、子ども会工事体験会を5回開催し、地面の掘削体験や敷石並べ、植樹等を行いました。竣工式では、子どもたちが祝典曲を合奏し、また井戸の故事にちなんで野点のお茶会を開催し、町内の和装の女性や子供たちが参加者にお抹茶を振る舞いました。井戸は手押しポンプで誰でも水を汲み上げて楽しむことができるようにし、周囲には深草地域ゆかりの品や芸術作品を配しました。個性的で美しい憩いの場が完成し、見物客も訪れるようになりました。



工事体験会に参加した子どもが「あの井戸は僕が造ったんや」と親に自慢しているとの話を聞き、伝統や地域を大切にすることが次世代に伝えることができたとうれしく思っています。



蔵ジャズフェスティバル

蔵ジャズフェスティバル実行委員会

「蔵ジャズフェスティバル」は、伏見でしかできない、複合的音楽イベントとして、地域経済・文化振興・観光などの発展に繋がります。

「日本酒」や「坂本龍馬」に代表される歴史の街の他に「音楽」という新たな切り口を伏見区に作ることで、それまで伏見を訪れていた層とはまた違った人達に伏見を訪れる目的・きっかけを作ります。そうすることで、人の流れを作り、まちの活性化を図ります。そして、相乗効果として伏見への愛着の醸成、街のにぎわいを創出することで、伏見区のイメージアップを図り、また人の流入を増やすことで、公共交通機関利用の増加や商店街の物販、飲食の増加などにつなげます。

第2回蔵ジャズフェスティバルは、10月5日に3会場で開催し、好評を博しました。第3回も2015年3月21日に開催します。



大変沢山の方にお越しいただき、驚きました。どの会場も多くのお客様で満員になり、界限には人があふれ行き交い、目指す街づくりの姿が少し垣間見えた気がしました。



久我の杜 地域セミナー

久我の杜つながり隊プロジェクト

現在は、高齢化率が全市平均に比べて低いものの、今後、爆発的に高まっていくことが予想される久我・久我の杜・羽束師地域で、高齢問題の普及啓発を目的とした地域セミナー「シンポジウム これからの私たちの福祉のまちづくり」を7月に開催しました。パネリストとして、大谷大学の志藤修史教授や、地域の民生委員の方々にご登壇いただき、今、私たちができることについて議論を深めました。その後も、くらの医院の倉田正先生をお招きし、第2回目となる地域セミナー「健康なうんこさんいっしょい」、タレントの森脇健児さんをお招きしての第3回地域セミナー「森脇健児さん講演会」を開催しました。



シンポジウムでは、平成25年の台風18号の被害の事例をもとに、日頃からの繋がり大切さについて学ぶことができました。



伏見情報集積・発信Webサイト事業

特定非営利活動法人 伏見観光協会

地域の大学、学生・社寺仏閣・酒造会社・地元企業・商店街・その他地域団体で、伏見の情報集約と発信を目的としたグループをつくり、様々な視点を取り入れたWebサイトを企画・制作します。

伏見の歴史文化継承、魅力発信、訪れる・住むための情報やリアルタイムの情報発信を行い、伏見への集客や集いの場を提供し活性化を目指します。

長期的には本事業を推進しながら伏見地域におけるネットワークを築き、新たな活性化事業を創出していくことを検討しております。



伏見でご活躍される様々な立場や世代の方々のご意見にWeb企画の視野も拡大しています！



ネットワークづくりに向けたワークショップ風景

伏見のヒーロー伝説とまちづくり計画

伏見歴史顕彰会

伏見の埋もれた歴史的事実を広く社会に伝えることによって、伏見の魅力をアピールし、まちづくりに活かすことを目的に平成25年度から活動を始めました。

平成26年度は、次の4つの事業を中心に活動しました。

- ①天明伏見義民事件をテーマとした講演会の開催や劇画化した冊子の配布
- ②伏見桃山や安土桃山時代といった表現に用いられる「桃山」の語源をめぐるポスター展の開催
- ③豊臣秀吉と千姫の着付け体験、伏見城の城下町としての伏見の魅力発掘
- ④伏見桃太郎伝説の絵本化



知っている人はより深く興味を抱く機会として、知らなかった人は新たな史実を発見する機会として、新鮮な感覚で参加いただけたようです。



さと・まち コラボ

砂川学区自治連合会

平成25年9月、砂川学区自治連合会と、京北自治振興会が、京北第一小学校において、お互いの地域の良さを活かした、姉妹学区として、継続的に交流を積みかさねていくことについて話し合いを行いました。その第一歩として平成26年8月、京北自治振興会の役員の方皆さんら12人に砂川小学校へ来ていただき、砂川学区自治連合会の役員ら8人との交流が実現しました。また、京都府警察学校の理解と協力のもと、施設内の見学・研修会を実施するとともに、両小学校の子どもたち57人も共に交流を深めました。2月には、龍谷大学で150人の住民等が集まり、学長、区長立会いのもと、両学区の校長が交流校の看板を交換し、相互の地域を理解する「さと・まちコラボ交流会」とシンポジウムを開催しました。



京北の自治会行事に参加させてもらい、無理をしないで続けられる交流展開のありかたを練っています。10月は京北小学校で、両校の5年生同士がサッカーと昼食で交流しました。



桃山プロジェクト

桃山プロジェクト

桃山プロジェクトでは、江戸期には「吉野の桜か伏見の桃か」と並び称された伏見桃山の桃景観の再生を目指し、公園や学校、寺社、団地などに働きかけ、これまで約200本の桃の苗木の植樹をしてきました。今年度は植樹した公園の管理活動にも力を入れており、両替町公園、東奉行町公園、南部児童公園では月2回の清掃と草刈りをしながら、ガーデニングのインストラクターを招いて花壇作りを教わったり、ヨガ体験とランチ会を行ったりしました。その他、たくさんの地域の方々と共に、自然に親しむ活動や桃スイーツその他の桃料理の開発にも取り組んでいます。



植樹と公園の管理活動を通じて、地域のたくさんの人達と知り合うことができました。いつもわいわいと土いじりに励んでいます。桃山の歴史の勉強にもなります。



世界に発信、伏見の暮らし、歴史と酒とおばんざい

伏見力発信プロジェクトチーム

「伏見の生活力を観光ルートに」というテーマのもと、インドネシアの留学生数名と通訳兼案内役が街歩きをおこない、美しい風景写真を撮れるスポットを発掘しました。そのルートをもとに、中国からの留学生にも伏見を案内し、感想を聞くとともに、今後の構想などを話し合いました。

現在、留学生からの感想をもとに、パンフレットを作成しています。パンフレットは、4ヶ国語に翻訳し、印刷する予定です。



I had great time looking around Fushimi. I have never known that there are so many interesting places.



ふかくさ町家シネマでつなぐ異世代交流事業

ふかくさ町家シネマ・プロジェクトチーム

ふかくさ町家シネマでは、映画館のない伏見区で、古い映像やテレビ番組、映画の上映会を定期的に行っています。ただ映像を観るだけでなく、私達学生が高齢者の方々に昭和時代のことをいろいろ教わり、世代を越えたおしゃべりを楽しんでいただきながら映像を囲むというものです。チャンネル争いをしたという昔のお茶の間の団欒のような場を目指し、異世代交流や地域住民間のコミュニケーション不足が解消されるよう続けたいと思っています。ふかくさ町家シネマでのお年寄りの皆さんと私達の会話が、伏見深草地域の活性化に少しでもお役に立てば幸いです。



運営や集客は難しいものの、楽しんでいただくための工夫やおもてなしなど、多くを学びました。深草住民の方々のくらしの歴史知識や即妙なお発言で、私達も楽しんでいます。



あなたの居場所「ス カサ」

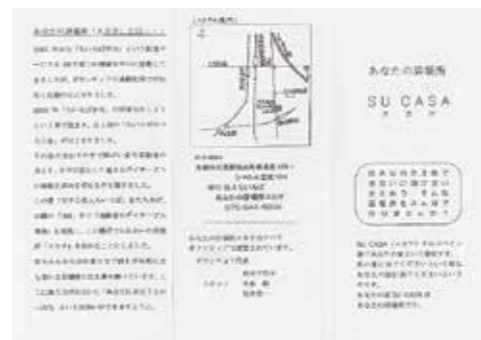
特定非営利活動法人 ちいろば

赤ちゃんからお年寄りまで、地域の誰もが気軽に集える居場所として、様々な取組を実施しています。(健康ランチ・歌声喫茶・絵手紙教室・気功・手話サークル・たべろう会・音楽を楽しむ会・食事の指導・体操・認知症カフェの取組等)

認知症カフェの実施を目指して、11月14日に「認知症あんしんサポート講座」(参加者38名)を、12月2日に「認知症についての学びあい支える人達の交流会」(参加者22名)を行いました。今後も継続して催しを実施していきます。



認知症の方の「私達抜きに私達の事を決めないで」のメッセージが心に響きました。学びあい、交流を重ねて、認知症カフェの実施を目指していきたいと思えます。



淀の歴史、文化を広めるための紙芝居制作・公演事業

淀みず車の会

淀は京都南部の交通の要衝として、近世には山城で唯一の城下町として発展した地域ですが、明治以降、河川の付替え等により様相が一変し、昔のことを知っている人も少なくなって来ました。私達は淀の歴史や文化・自然を発掘、再発見するため、紙芝居を制作して、地域のイベントやコミュニティ事業の場で発信しています。今年度は淀や美豆、納所、一口、羽束師、洞ヶ峠など淀周辺の地名の成り立ちや由来を訪ねる「地名の由来」を完成させました。次回作は、淀に残る逸話やこぼれ話を取り上げようと思っています。



デジタル時代にあっても紙芝居は人と人が触れ合うアナログの味わいがあります。



森林・里山の空間とクリーンエネルギーの活用

みどりの会伏見桃山

みどりの会伏見桃山では、伏見北堀公園、桃陽総合支援学校、呉竹総合支援学校、藤城小学校など地元伏見の公園や学校の付施設において、清掃、除草、剪定などのボランティア活動を実施しています。

当会は、2001年に発足し、活動は継続・発展しています。当事業は、桃陽総合支援学校に付設し、明治時代は庭園であった「学びの森」を活用して、タケノコ掘り、シイタケ栽培、森の観察会等のイベントや倒木や伐採木の薪作りを行い、地元の学校の参加のもと、薪ストーブ用の薪を無償で提供しています。



身近で森林や里山の自然や仕事にふれ合い、体験することができます。また薪やきのこなども供給できる喜びもあります。



桃山南学区安全マップづくり

桃山南学区自治会連合会

平成25年度は、児童が自分の身を守るために「安全・危険」の考え方を学ぶことを大きな目標にして、学区内の街歩きを元にした地図づくりの講習会に取り組みました。

平成26年度は、大人と子どもが共に学区内を歩き、異なる目線や価値観をうまく組み合わせて学区内の安全あるいは危険な場所をピックアップしました。

今までの取組と合わせて、ひと目で学区の状況を網羅できる手づくりの安全マップにして皆さんに配布します。



毎日のように歩いていると、安全・危険を意識しないと気づかないことがたくさんあることがわかりました。マップに込められた想いを多くの人に伝えたいです。



父活PROJECT ものことは2014

父活プロジェクト

子育てや地域の課題を共有し、子どもに向けて共に創るプロセスを通して、子育て家庭と地域とのつながりをデザイン・発信しています。

現在、子育てに関するモノづくりが、父親の姿をみせる機会となると考え、「ものことば」事業に取り組んでいます。2014年は、誰もが経験した子供時代の「遊び」をテーマに、子供に対する眼差し、模倣から遊ぶにつながっていくインタラクションという、単なる娯楽としての要素だけではない、コミュニケーションツールとしての玩具(おもちゃ)づくりを実施しました。



ふかくさ100円商店街で竹を使ったワークショップを行いました。ものづくりによる地域との架け橋となりました。2015年のテーマは「学び」です。親子のコミュニケーションを発信します。



もっと伏見の自然に向き合おう！

名神深草森の会

伏見区内には豊かな自然がたくさんあります。その自然に、ごく普通に触れ、興味を持っていただける機会を提供する活動として、自然観察会を4回開くことにしました。初回は、子ども向けに木の葉っぱを使った絵はがきづくりを開催し、自分だけの絵はがきができました。

11月には、醍醐山周辺の観察会で、普段気が付かない木々やキノコなどをじっくりと観察、講師の解説でさらに興味が増したようです。



伏見に住んでいながら、醍醐の山に登ったことがないとか、ただ歩くだけで周りに関心がなかったとか言われる方が多かったが、解説を聞きながら周りに目を向ける楽しさを覚えたという好評でした！



淀・淀南・納所地域におけるモビリティ・マネジメント

淀・淀南・納所地域のモビリティ・マネジメント推進プロジェクト

平成25年12月21日の阪急「西山天王山」駅の開業に伴い、JR長岡京駅、阪急西山天王山駅、京阪淀駅を結ぶ新バス路線である90系統が運行を開始しました。

しかし、現在は、赤字運行であり、また現在のダイヤは30分～1時間に1本程度とまだまだ不便です。乗客数を向上させることで、より便利なダイヤへの転換を促すという好循環の実現を目指して、バスの乗降調査やチラシの配布、時刻表の配布等地域の公共交通利用促進のための取組を行いました。



乗降調査等によって、ニーズを知ることが出来、今後の活動につながる一年となりました。



親子で見て知って楽しもう、伏見のヨシ

伏見楽舎

伏見楽舎は、親子の絆・地域の連帯を深めることを目指して、各種イベントを企画、周知、実施しています。

8月には、宇治川沿いでの「ツバメのねぐら観察会」、9月には、地元伏見のヨシを題材に、伏見・三栖地域の伝統的な三栖神社・炬火祭(たいまつ祭り)の歴史と、宇治川沿いのヨシだけでできた巨大なたいまつについて、ヨシの刈り取りから作成・運行までの講演会を行い、10月には、炬火祭(たいまつ祭り)の見学会を行いました。また、2月にはヨシズ作り体験会も行いました。



様々な形でヨシを知って、理解してもらおう催しを開催し、親子で共に参加、体験してもらうことで、伏見の自然環境、伝統文化、歴史への理解が深まると考えます。



地域協働によるまちづくり推進活動

柿原団地自治会

平成25年12月に当団地内の一部が土砂災害警戒区域に指定されたのを契機に、地域協働でのまちづくりの一環として、自主防災活動の強化推進を行っています。災害救助工具の取扱い講習、防災講話・救命講習会の開催などを行うとともに、自主防災組織、規程、防災計画見直しなどを実施してきました。

また、防災訓練などを通じて、住民間のつながりを強化し、「もしも・・・」のときの対応力でより良いまちづくりを行っています。



災害時の緊急対応を地域協働で行う手始めに、防災講話・救命講習会などを実施しました。開催に当たっては、自治会会員に広く呼びかけました。



みんなのうたごえカフェ

京都ピアノとうたの音楽ひろば

京都に避難してきた東北・関東の方々や伏見在住の方々などが、伏見区両替町の「みんなのカフェ」に集まり、毎月第2木曜日の15時～17時に「みんなのうたごえカフェ」を開催しています。歌を歌うことを通じて、避難者と地域の人々とのコミュニティーづくりの場を、また避難者が癒される所・拠り所・居場所を作っています。また、うたごえカフェから生まれた「京都と東北を結ぶみんなのカフェハーモニー団」は、様々な京都府民の集まる場で「花は咲く」を歌い広め、東日本大震災の風化防止を促す取組を行っています。12月には福島・浪江町からの避難者さんの講演も行いました。



うたごえカフェを開催することで、避難者と地域の方々の交流が生まれるだけでなく、講演では、被災地の現状を知り大震災への備えや防災意識を身近に感じることができました。



地域のふれあいと健康づくり

久我菜の会

来たるべき近い将来を見据え、正しい健康情報を専門の先生から得て、地域の皆と知識を共有し、体を効果的に動かすことで、地域全体で健康寿命を延ばしていけるように、健康づくり教室を開催しています。

‘目からうろこ’の健康情報を聞ける機会として、9月は「メタボとその予防法」、11月は「ロコモとその予防法」、1月は「上手なコミュニケーションの取り方」の3回シリーズで開催しました。



タオルを使った拳ストレッチ、チラシを使った脳トレ&ジグソーパズル。奇抜なアイデアに各グループで歓声があがり、こぼれるような笑顔とともに皆が夢中で取り組んでいました。



伏見板橋から広げる伏見区よいまちづくり活動

特定非営利活動法人 伏見板橋よいまちづくり

当法人では、人々の交流をはかり地域の絆を強める一環として、9月18日にマイクロライブラリー(=個人または小さな団体が、個人の蔵書や地域で集めた本を広く開放し、閲覧や貸出を行っている私設図書館)活動の提唱者である磯井純充氏(森記念財団・大阪府立大学)をお招きしてご講演をいただきました。講演の第一部では磯井氏の講義、第二部では、磯井氏のお話を聞いて、「井戸端談義」と銘打ってのワークショップにより、参加者間の相互理解をはかりました。



磯井氏の「マイクロライブラリー」活動のお話をお聴きして、人が集い、絆を強める取り組みや、「場」の作り方を学ぶことができました。



伏見まるごと博物館2014

伏見まるごと博物館

伏見まるごと博物館の今年度の活動は、まちの魅力の発見(「発見の達人」事業)を主に進めました。メンバーが「まちの語りのホスト役(お迎え役)」となって進めるその名も「ホスト倶楽部」。まちに出かけて先達にインタビューをしたり、微地形(小規模な起伏を持った地形)を手掛かりにまちの賑わいを議論します。また、実際に坂道を歩いたりするなど、まちを新たな視点で再発見していきました。新旧のメンバーが企画立案やゲストとの交渉をすることで、まちを記録するためのスキルアップを図るとともに、活動を通して得られた伏見の個性を記録していくアーカイブ事業も進めています。



ちょっと視点を変えるだけで、何気なく日々歩いていた場所がまったく新しく見えてくる。伏見のまちは尽きない宝の宝庫だと実感しています。



伏見まちかど音楽隊

伏見まちかど音楽隊

伏見まちかど音楽隊では、「音楽とは、世代を超えて効果的な力を発揮するコミュニケーションツール」と考え、音楽を用いて交流を生み、伏見区の住人と「いきいきとした暮らし」を図っていくことを目的に活動しています。

「誰でも気軽に、生活の中に音楽を♪」ということで、楽譜、歌唱、楽器のお好きなメニューを選んでいただき、それぞれ興味のあるメニューで、楽しく談笑しながら、「音楽」というコミュニケーションツールを、日常の中に取り入れていく合唱教室や楽器教室を開催しています。



音楽を通じた、気兼ねない自己表現をする場を創出する事で、多くの表現に触れられる事がとても嬉しいです。



町家 de 交龍

特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ

町家という空間を活用して、地域の方にも気軽に参加していただけるイベントを開催することで、地域間・世代間交流を促進し、情報共有や意見交換による地域課題の発見や、活性化に向けた連携体制の構築を目的に、年3回の交流(交龍)イベントを企画しました。

8月6日の「夕涼み de 交龍」は台風の接近により中止となりましたが、10月8日に「御月見 de 交龍」を実施し、学生、留学生、地域住民など24名が参加し、講師より日本文化や風習について学び、参加者で月見団子を作り、食しながら多世代間交流を行いました。

1月には、深草学区の各種団体と連携し、「餅つき de 交龍」を開催しました。



近年では、あまり馴染みのない文化を見つめ直す機会になったと同時に地域間交流も行えました！



古絵図・古地図で再発見！過去・現在・未来

深草古絵図プロジェクト

深草地域の歴史的・文化的資源を各時代の古絵図や地図等を展示し、自由に語る場を作り、多世代間交流を図り、地域の魅力を実感し関心を深めることを目的に活動しました。

第1回「100年前の深草・藤森」展示(8月11日～30日)と語り合う会(8月30日)、第2回「深草の自然の成り立ち」講演会(10月29日)を開催しました。その後、地域の大学や商店街のイベントで「古地図や写真等」の展示依頼を受け、更に多くの方々に見ていただきました。第3回は「江戸時代の深草・藤森」展示と講演・語り合う会(3月7日)を開催します。



地域の方々から写真等を気持ちよく提供いただき、また多くの方の来場でワイワイと楽しく情報交換や交流が図れ、関心の深さを実感しました。



年齢より若い体力ある健康づくり

健康体操クラブ砂川

当団体は、毎週水曜日、地域の皆様方と体を動かしています。

赤ちゃん連れのママから年配の方まで、忙しい毎日の中でつい後回しになりがちな自分の体を、先生の号令にあわせゆっくり動かしながらお手入れしていきます。若い方のほうがよく動く？そんなことはありません。意外と若いママが体が硬くて苦戦する中、高齢者の方が笑いながら元気に動かしておられます。その横で赤ちゃんがすやすや・・・。

体を動かす楽しさを少しでも感じてもらえたらと活動しています。



体を動かしたい人は多いのですが、体力や痛みを持っている不安などで諦めている方も多く感じました。動かすことで楽になることを伝えていきたいです。



ヨシを活用して、伏見の特産品を創ろう！

龍谷0DEN

龍谷0DENは、龍谷大学で環境を学ぶ学部生や大学院生が、伏見で活動されている地域の住民グループの皆さまと一緒に、宇治川左岸のヨシ原の継続的な管理と保全を維持していくために、市民や子ども向けの環境教育をはじめ、ヨシを利活用した新しい商品創りに挑戦している学生グループです。今年度は、初めて関わったこともあって、「ヨシを知る」、「ヨシ原を知る」、「ヨシ原の生態学的な役割を市民や若者に広く宣伝する」、「ヨシの特性を活かして、新しい商品を考案する」などの活動を行いました。



一般市民や地域の子供たちと一緒にヨシの紙漉き体験を行い、身近な自然の存在を考え直し、生活の中での利用・活用方法について学べるいい機会となりました。



わかち合い繋がる「場」づくり事業

大人（高齢者）の元気プロジェクト

伏見区内醍醐地域住民、特に高齢者に対して、文化やアート・芸術を題材にワークショップを行い、交流の場や機会を設けて場の活性化を行い、出会いを繋ぐ活動を行っています。11月26日に醍醐いきいき市民活動センターにおいて、「セピア色の思い出」のテーマでワークショップを開催しました。(参加者5名)12月24日にも開催しました。



参加を募るのが難しかったですが、持参を願った思い出の写真や醍醐地区の古写真や地図を囲んで交流の機会がもてました。



【本事例集に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室企画担当 (電話 075-611-1295)

【伏見区区民活動支援事業に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話 075-611-1144)

深草支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話 075-642-3203)

醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話 075-571-6135)



平成 27 年 3 月発行
伏見区役所地域力推進室
京都市印刷物第 263266 号

